

特集 「2015年度人工知能学会全国大会 (第29回)」

# 公開イベント「コンピュータ囲碁はどこまで人間に迫れるか」

松原 仁 (公立はこだて未来大学)

人工知能学会全国大会では2年前から人間とコンピュータ囲碁の公開対局を行っている。将棋はほぼ決着がついた (すでに事実上人間よりもコンピュータのほうが強い) というので、それよりコンピュータにとって難しい囲碁を対象としている。このイベントの目的は、人工知能のグランドチャレンジの一つとされるコンピュータ囲碁がどれくらい強くなったかを知ってもらうこと、およびコンピュータ囲碁を通じて一般の方々に人工知能の現状を知ってもらうことである。そのためこの公開対局は全国大会の参加者だけでなく、広く地元の方々 (主に囲碁ファン) に無償で見せていただいている。

今回は人間として函館に縁のある (函館の高校を卒業した) プロ棋士の下坂美織二段を日本棋院から紹介していただいた。これまではアマだったので、プロ棋士の対戦は初めてである。コンピュータ側はこれまで同様に昨年のコンピュータ囲碁選手権で国内一位であったZENである。解説は日本棋院の小林 覚九段にお願いした。司会進行は昨年同様に伊藤毅志氏 (電気通信大学)、聞き手は荒木伸夫氏 (電気通信大学) にお願いした。

一昨年はコンピュータのZENが3子のハンディをもらって5目半勝ちした。昨年は2子で逆コミ6目半というハンディをもらって2目半勝ちした。初のプロ棋士との対戦ということでハンディをいくつにするか悩んだが、下坂先生と小林先生と相談して3子に決定した。

5月31日に行われた下坂美織二段とZENの囲碁の対戦は下坂二段が中押しで勝利した (中押しというのはZENが負けを認めて途中で投了したということである)。ZENはアマ相手には3子のハンディで勝っていたが、やはりプロ棋士は強いことが再確認されたしだいである。

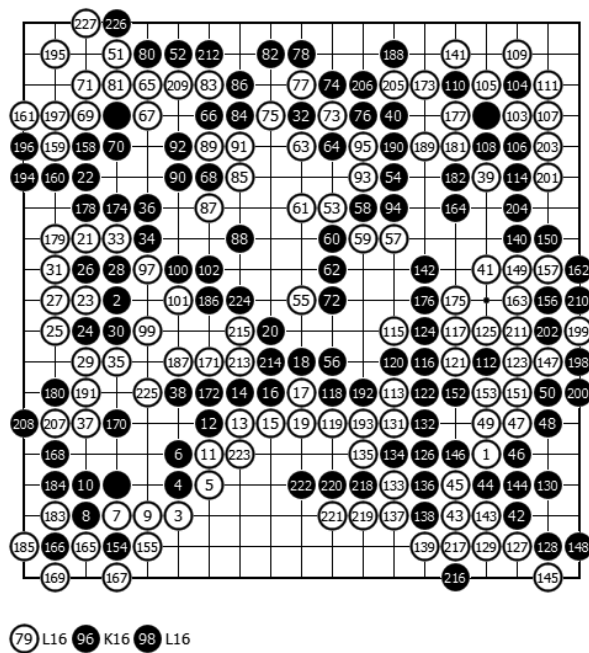


図1 棋譜

大会参加者だけでなく地元の多くの囲碁ファンに観戦していただいた。また地元の新聞やテレビにも対戦が取り上げられた。コンピュータ囲碁はかなり強くなったものの、まだプロ棋士にはかなわないという現状を知っていただけたと思う。コンピュータ囲碁は引き続き人工知能の有力なグランドチャレンジであり続ける。対戦していただいた下坂二段、DeepZenの加藤氏を始め協力していただいた方々に深く感謝する。来年の全国大会でも囲碁のイベントを継続するつもりで準備を進めている。